

温州ミカンの整枝せん定に関する研究

(第2報) 整枝せん定の省力化について

佐藤 二郎・三股 正

(大分県津久見柑橘試験場)

SATO, J. and MIMATA, T.

Studies on Training and Pruning of Satsuma Trees.

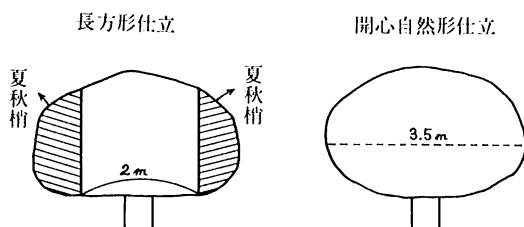
(II) On the Labor — Saving of Training and Pruning.

柑橘園経営の省力化は、基盤整備と、樹形の改造
 が大きい要素になる。長方形仕立は、開心自然形仕
 立に比して、せん定作業においても、果実の収穫な
 らびに運搬作業にしても、省力化が出来ることは、
 第1報にて報告したとおりであるが、更に刈込せん
 定を続行した場合の結果を、第2報として報告する。

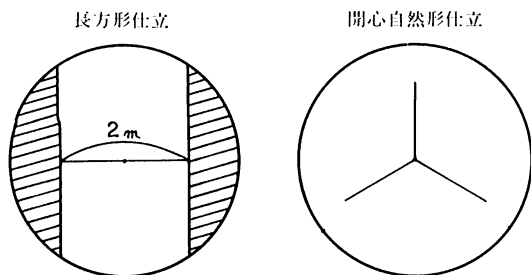
間および品質を調査した。

試験方法

第1年度に、東西両面を、鋸で刈り込み、樹巾を
 2 mに改造して、長方形に仕立てた区は、(第1図)



第2図 (第2年度)



第1図 (第1年度)

試験成績ならびに考察

1. 刈込みによる、長方形仕立区は、側枝が伸び
 徒長枝も出て、樹形がみだれてきた。
2. 発生した、夏秋梢には大部分結実した。しか
 し夏秋梢が長いため、強風にあつたら、風ずわ果が
 多くなる様な状態であつた。
3. 樹形のみだれが影響して、採取に要する時間
 は、第1年度のような差が認めなかつた。(第1表)
4. 果実の品質については、玉ぞろいには、その
 差が認めがたいが、品位では、刈込みせん定区が、
 低下する傾向にあつた。

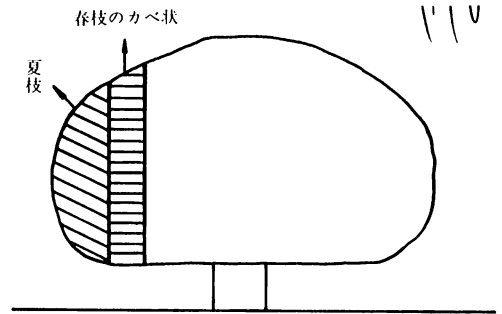
(第2表・第3表)

発生した夏秋梢を、そのままにして、第2年度は
 無せん定とした。(第2図)。

更に第3年度は、西側のみ片面、刈込みせん定を
 なし、1樹トッピングもなし、従来のせん定法と比
 較した。調査は、第1年度同様、両区より適当な、
 樹を2樹あてえらび、収量ならびに採取に要する時

第1表 収量と収穫能率

区別	収量		1果当り 平均重	1人1時間当り収穫量	
	重量	個数		重量	個数
長方形	A	76.8 ^{kg}	755 ^ヶ	101.7 ^{kg}	857 ^ヶ
	B	57.9	781	74.1	55.1
開心自然形	A	105.7	1,198	88.2	62.2
	B	96.0	1,152	83.3	68.6



第3図 (第3年度)

第2表 果実の大小割合

区別	L L	I		M		S		S S	
		%	%	%	%	%	%	%	%
長方形	A	3.6	29.1	40.3	20.3	6.7			
	B	0	4.4	24.8	48.5	22.3			
開心自然形	A	1.7	19.2	42.7	28.8	7.6			
	B	1.3	13.1	35.7	36.6	13.3			

5. 尚第3年度、西側同一個所を、刈込みせん定をした場合、樹冠外周の内側に、およそ30cm程度の緑枝層が、カベ状になり、内部に空洞が出来はじめ、枯枝が多くなる傾向が認められた。

(第3図)

6. 刈込せん定、ならびに、長方形に仕立てる場合には、尚その方法に、改善すべき点が多く、試験を続行し究明する必要がある。

第3表 果実の品位割合 第

区別	秀		優		良		
	ヶ	%	ヶ	%	ヶ	%	
長方形	A	390	51.7	281	37.2	84	11.1
	B	589	75.4	166	21.3	26	3.3
開心自然形	A	896	74.8	243	20.3	59	4.9
	B	788	68.4	286	24.8	78	6.8